

2015年度

事業報告書

2015年4月 1日から
2016年3月31日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

【事業活動】

1. 2015 年度の事業概況	1
2. グラフで見る 2015 年度の事業	3
3. 事業の状況	4
I. [公益目的事業 1] 科学技術館の運営事業	4
II. [公益目的事業 2] 他館の運営管理事業	6
III. [公益目的事業 3] 他館に対する活動支援事業	10
IV. [公益目的事業 4] 科学技術系人財の育成事業	12
V. [公益目的事業 5] 科学技術の普及啓発事業	13
VI. [公益目的事業 6] 科学技術振興に関する調査研究事業、	
VII. [公益目的事業 7] 科学技術の研究開発とその促進事業	14
VIII. [収益事業 1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業	15
IX. [収益事業 2] 科学技術館施設の利用促進事業	16

【総合活動】

1. 当財団の組織	16
2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担	17
3. 会議の開催	17
4. その他	18

【事業活動】

1. 2015年度の事業概況

I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

1. 入館者状況

入館者数は約56万8千人(前年度比1.8%増)、2年連続の増加。10月23日に来館者累計3,000万人達成。

2. 展示室の新設・整備

「ベアリングラボ」(日本精工(株))11月19日オープン。

「Metal Factory」(日本鋳業協会)16年3月18日オープン。

建設館の展示構成見直し(16年2月)。

3. イベントの実施

(1)ニッポンの産業技術50年「しくみとくふうと、まなぶ展」15年3月20日～4月7日開催(JKA補助金)。

(2)ニッポンの産業技術50年「大・展望展」8月8日～30日開催(JKA補助金)。

(3)夏休み特別展「科学捜査展Ⅱ」7月31日～8月30日開催(日本財団助成金)。

(4)「STEMプログラム」9月27日開催(ボーイング助成)。

(5)ニッポンの産業技術50年「北の丸シンポジウム」12月4日開催。

4. サイエンス友の会

科学技術館で実施する工作教室や実験教室、企業などの施設見学会等を計393回開催。

小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ7,518名が参加。

II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業

1. 所沢航空発祥記念館の運営(埼玉県受託事業)

「星に導かれて～天文航法の歴史～」特別展を夏に、「時代を翔る日本の傑作機たち」特別展を秋から開催中。

2. 国立ハンセン病資料館(厚生労働省受託事業)

企画展やシンポジウム、語り部や学芸員による館内での講演・展示解説により、入館者数は32,370人となり過去最高を達成した。

3. 青森県立三沢航空科学館(青森県受託事業)

夏休み特別企画展として映像とフィギアを用いてお化け屋敷を模した特別展を開催。

III. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務(鳥取市文化財団受託事業)

2. 国立天文台アルマ棟バナー製作設置業務(国立天文台受託事業)

3. 美浜町エネルギー環境教育体験施設・体験プログラム開発(トータルメディア開発研究所受託事業)

4. 日本鋳業協会科学技術館出展・展示制作業務(日本鋳業協会受託業務)

5. 東京水道サービス(株)新漏水探知機PR映像制作業務(乃村工芸社受託事業)

6. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

7. 新規番組制作(岡三証券グループ)

8. 大型映像投影システム(大和ハウス工業(株)より受注)

IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

1. 青少年のための科学の祭典2015

(1)全国大会 7月25日・26日に科学技術館で開催。入場者数13,185人、出展数70。

(2)地方大会 北海道から沖縄まで76市町村で開催。

2. 国際科学オリンピック

(1)日本生物学オリンピック2015の開催。

(2)第28回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣。

3. その他

(1)教員のための理科実験指導育成講座の開催(東京応化科学技術振興財団助成事業)。

(2)少年少女創造性育成事業の実施(新技術開発財団受託事業)。

(3)子供科学人財育成事業の実施(沖縄県受託事業)。

(4)ボーイング社の支援によるCanSatプログラムを3年計画で推進中。

V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

1. 第56回科学技術映像祭（応募は、31機関から32作品が出品）

(1)内閣総理大臣賞受賞作品

「鳥の道を越えて」（企画・制作：工房ギャレット）

(2)表彰式、入選作品上映会を科学技術館サイエンスホールで開催。（4月16日、17日）

(3)入選作品は、全国の14科学館で上映会開催。観客者数は、52,934人。

2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業

(1)資源エネルギー庁受託事業の「エネルギー教育普及事業」を実施。

小中61校をエネルギー教育モデル校に選定し、エネルギー教育、かべ新聞コンクール等を実施。

(2)資源エネルギー庁受託事業の「体験教室普及事業」を全国12の科学館等で実施。

(3)「放射線」教育を実施する教員を支援するため、各種情報を提供する放射線教育支援Webサイト「らでい」の運用と教員研修、放射線出前事業を実施。

(4)「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会に放射線実験ブースを出展。

(5)資源エネルギー庁受託事業の「立地地域原子力教育セミナー」事業を全国19都道府県で実施。

VI. [公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業

VII. [公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業

1. 調査研究事業は、科学館、博物館等の来館者調査や科学技術リテラシー調査など。

2. 広報活動は、「JSF Today」（季刊）および科学技術館メールマガジン（会員数10,872人）の発行、twitterによる情報発信（フォロワー数1,830人）を実施。

メールマガジンの「科学・技術よもやま話」を書籍化（東京応化財団編集）。

VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

1. 情報システムの設計開発

(1)データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発。

会計検査院、(学)産業能率大、(株)ニッセイコム、(株)イセトリー、(株)片平エンジニアリング向け業務。

(2)設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発。(株)電通国際情報サービス向け業務。

(3)文部科学省 ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム情報提供・広報活動業務。

(4)科学技術振興機構 科学技術・理科教育用デジタル教材提供システムの運用保守。

2. 情報システムの運用サービス事業

(1)中外製薬、オムロン：LMS(Learning Management System)の運用業務。

(2)(学)産業能率大学、(職)日本技能教育開発センター：通信教育Web受講申込システムの運用業務。

(3)(一社)電子情報技術産業協会：統計システムのデータ登録・運用業務。

(4)(学)産業能率大学：会計決算システム運用業務。

(5)通信教育団体：成績報告サービス。

IX. [収益事業2] 科学技術館施設の利用促進事業

1階の展示・イベントホールでは、各種販売会、技術展、発表会の開催、地階のサイエンスホールでは、各種イベント、講演会、セミナー等の開催に向けて施設運営事業を推進している。

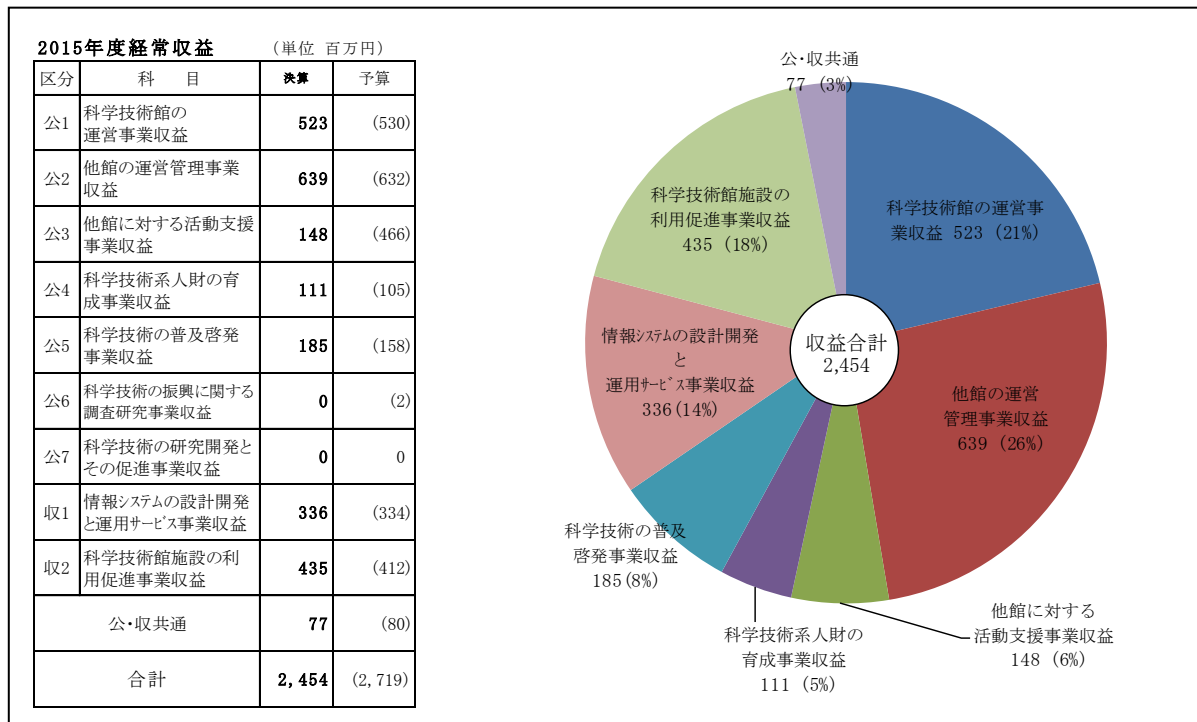
5階、6階の会議室の貸出し事業も推進している。

また、自主事業としてパソコン教室を開催している。

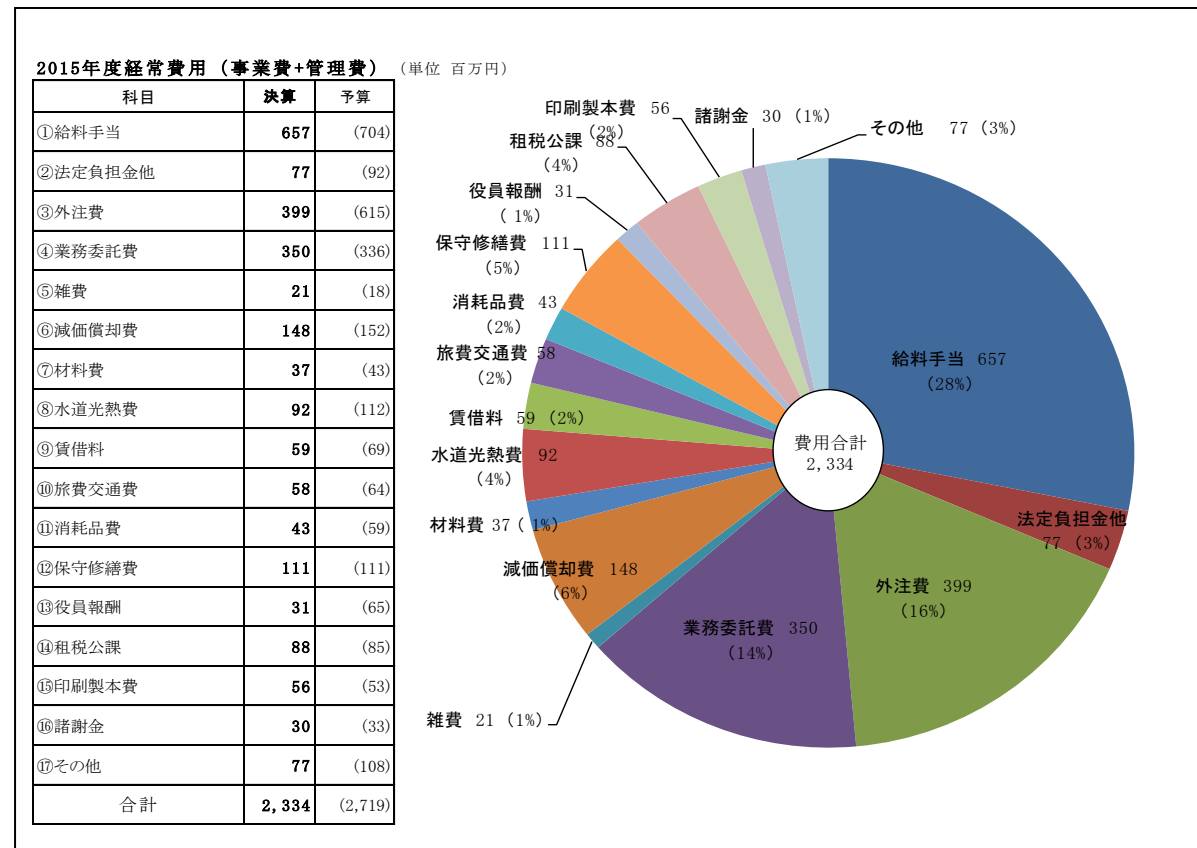
収益事業1、2は、公益目的事業実施の基盤となる重要な事業である。

2. グラフで見る 2015 年度の事業

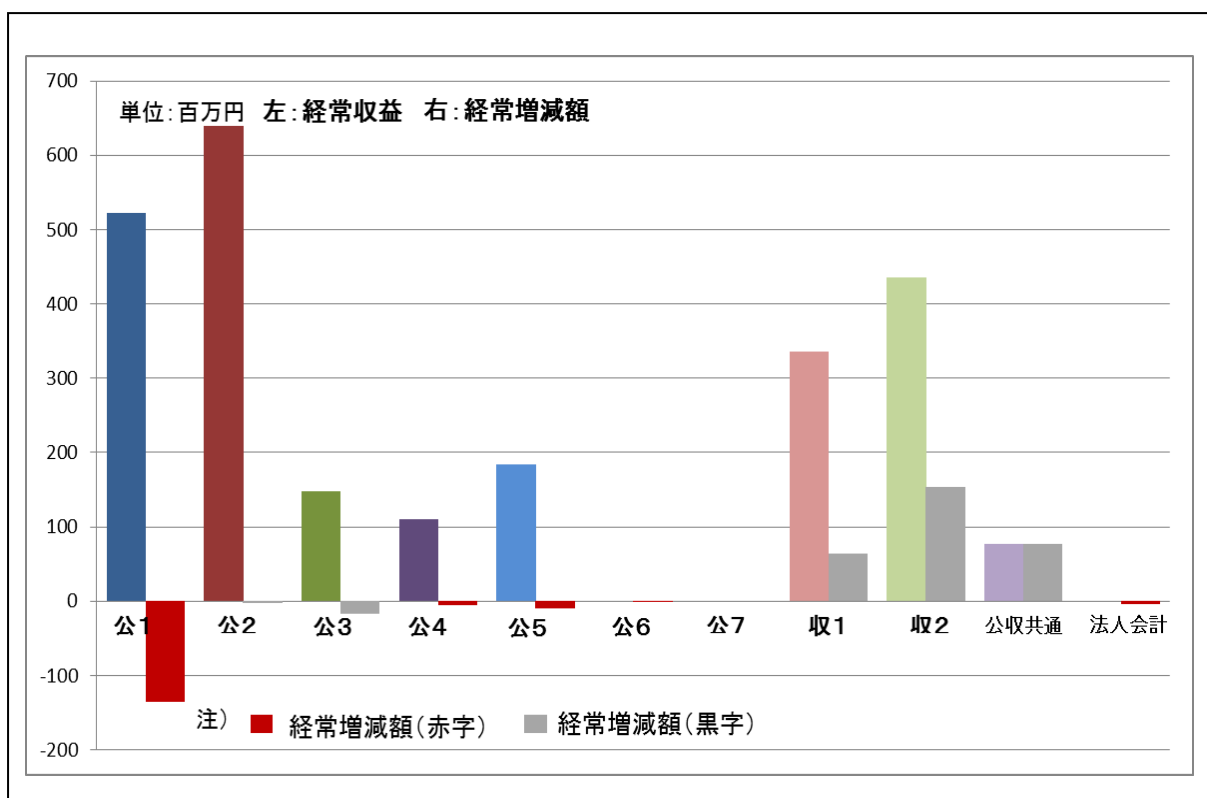
(1) 経常収益



(2) 経常費用(事業費+管理費)



(3) 事業区分別の経常収益と当期経常増減額



3. 事業の状況

I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

科学技術館では、実際に手で触れて操作し（ハンズオン）、楽しみながら、科学の基礎原理から生活に密着した産業技術や先端科学までを理解できることをめざしている。それを補完する多数の実験ショーやワークショップを開催し、学校教育では体験できない各種プログラムを実施した。開館以来、継続して活動している会員制組織「サイエンス友の会」や、特別展、企画展の開催など社会のニーズに対応した事業活動を展開した。

(1) 入館者状況

当年度の入館者数は約56万8千人となり、対前年度比102%と増加した。

要因としては、上期は夏休み特別展として2つのイベントを実施したことがあげられる。しかしながら下期は12月から2月にかけては近隣類似施設の改装に伴う開館により、多くの団体が他施設に流れたため、入館者数が減少した。

<入館者状況比較>

	2015年度(人)	2014年度(人)	前年度比(%)
4月	38,007	39,104	97.2
5月	33,799	32,746	103.2
6月	36,309	33,139	109.6
7月	36,072	35,932	100.4
8月	76,915	63,011	122.1
9月	28,446	23,685	120.1
10月	37,664	33,931	111.0
11月	58,504	57,821	101.2
12月	56,754	52,950	107.1
1月	64,129	74,975	85.9
2月	61,318	70,065	87.5
3月	39,942	40,893	97.7
合計	567,859	557,952	101.8

(2) 展示室の整備

- ①日本精工株式会社 (NSK) による新展示「ベアリングラボ」が11月19日にオープンした。
- ②日本鋁業協会による新展示「Metal Factory」が3月18日にオープンした。

(3) イベントの実施

- ①JKAの補助金を得て、ニッポンの産業技術50年 プレイイベント「しくみとくふうと、まなぶ展」を3月20日から4月7日まで開催した。
- ②日本財団助成事業として夏休み特別展「科学捜査展#SEASON2—科学捜査展、再び—」を7月31日～8月30日まで開催した。
- ③JKAの補助および60を超える企業・団体の協力のもと、夏休み特別展「くらしの技術⇄50年『大・展望展』」を8月8日～8月30日まで開催した。
- ④2014年に科学技術館開館50周年、2015年に日本科学技術振興財団設立55周年を迎え当財団が2年間にわたり推進してきたプロジェクト「NEXT50」。この事業を締めくくる記念シンポジウム「先進的『知』のネットワーク形成～日本の未来のために必要な人材育成に向けて～」を12月4日に開催した。
- ⑤サイエンス友の会会員を対象に、日本鉄鋼連盟との共催で、ものづくり体験「たたら製鉄実験」を行い、11月8日に実施された製鉄イベントの様子は一般に公開した。
- ⑥社会貢献事業に関心の高い企業の協力を得て教室やイベント等を開催した。(株)日立製作所による「日立サイエンスセミナー」、中外製薬(株)による「生物実験教室」、日本IBM(株)「TryScience実験教室」、日本カーモデラー協会及び(一社)日本自動車工業会「ワクエコ・カーモデラー教室」、(独法)理化学研究所「理研DAY」、「夢・化学-21」委員会「夢・化学-21」わくわく理

科・実験教室、林檎の会「宇宙をアートしよう」等。

⑦科学技術館来館者 3,000 万人達成

10月23日に科学技術館が1964年に開館して以来、累計来館者3,000万人を達成。これを祝して野依館長を迎えて記念セレモニーを開催した。

⑧（公財）日本海事科学振興財団（船の科学館・海の学びミュージアムサポート）の「海の企画展サポート」支援を得て、春休み特別展「海！！未来をひらく！海からの贈り物」を3月19日から4月7日まで開催した。

(4) サイエンス友の会

電子工作や木工工作教室、化学や生物をテーマとする実験教室、パソコンの使い方を学ぶパソコン教室、北の丸公園など屋外での自然体験教室、企業の協力による施設見学会、児童・生徒が自主的に取り組むレオナルド・ダ・ヴィンチ教室など、各種プログラムを1年間にわたって計393回実施し、小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ7,518人が参加した。

(5) ボーイングSTEMイベントとCanSatプログラムの開催

ボーイング社の助成により科学技術を総合的に体験・学習するSTEM教育（科学<Science>、技術<Technology>、工学<Engineering> & 数学<Mathematics>）プログラムを日本に導入すべく、シアトル航空博物館のサイエンスショー「フライング・ゴズモショー」とワークショップを科学技術館（9月27日）と杉並区和泉学園（9月28日）に開催した。科学技術館でのワークショップにはシアトル航空科学館とともに東レ株式会社および科学技術館スタッフのプログラムを実施した。

また、科学技術館オリジナルのSTEM教育プログラムとして、“空き缶衛星”打ち上げに中高生が挑戦する「科学技術館CanSatプロジェクトを開始した。

(6) 巡回展の貸出

「科学捜査展Ⅱ」、「科学捜査展」、「ロボット展」、「マグネット展」、「トリックアート展」、「スポーツの科学」、「ラビレット展」、「実験ジャー」等全国8か所の科学館に貸し出し、各館のイベントとして実施した。

(7) その他

①博物館実習実施

9月及び12月に、学芸員養成課程の大学生を受け入れ、博物館実習を実施した。

②インターンシップの受け入れ

8月に、大学生2人を受け入れ、博物館運営の実務研修を実施した。

9月～11月に国際インターンシップとして仏国ESSEC(エセック経済商科大学大学院大学)より学生1名を受け入れ、博物館運営の実務研修を実施した。

II. 【公益目的事業2】 他館の運営管理事業

科学技術館の運営の経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知識の普及啓発に貢献している。

1. 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県受託事業）

常設展示の運用、展示情報のデジタル化、特別展・公開講座・工作教室等のイベント開催などの運営や航空遺産の収集・保存・管理などの学芸活動を行った。

（1）展示館の運営

特別展を春夏秋冬に開催し、年間を通じて工作教室、公開講座、YS-11や格納庫の一般公開等の各種イベントや各種開催し、入館者の増加と顧客満足度の向上に努めた。

①特別展

1) 春季（会期：2014年11月22日から5月10日）

「宇宙世代のきみたちへ 空から宇宙へ 一条川英夫とはやぶさー」 15,861人

※上記特別展の人数は2015年度分のみ

2) 夏季（会期：7月18日から8月30日）

「星に導かれて～天文航法の歴史～」 18,604人

3) 秋季（会期：11月22日から4月17日）

「時代を翔(かけ)る日本の傑作機たち」 51,315人

※上記の特別展は九七式戦闘機レプリカを追加展示して6月27日まで継続しているが人数は2015年度分のみである。

4) ミニ企画展（会期：2月6日から4月17日）

「日本初の人力飛行機リネット～初飛行から50周年を迎えて」

②工作教室 : 30回、1,209人

③YS-11一般公開 : 3回、8,474人

④格納庫一般公開 : 4回、11,189人

⑤公開講座 : 7回、458人

⑥「青少年のための科学の祭典」所沢大会 : 1回、1,000人

（2）大型映像館の運営

魅力ある作品を選定、映像フェスティバルの開催を通じて、映像作品のバリエーションの充実を図ることで入館者増と顧客満足度の向上を図った。

①春季通常作品上映 : 4月1日から6月30日、6,032人

GWフェスティバル作品上映 : 4月11日から5月10日、2,581人

②夏季通常作品上映 : 7月1日から9月30日、9,399人

夏休みフェスティバル作品上映 : 8月1日から8月16日、2,886人

※ミニイベント「ペンギンイベント」開催 : 1,100人

③秋季通常作品上映 : 10月1日から12月27日、5,695人

秋季フェスティバル作品上映 : 12月12日から12月27日、5,301人

④冬季通常作品上映 : 1月2日から3月31日、5,967人

冬季フェスティバル作品上映 : 3月12日から3月31日、1,557人

※1月20日から2月20日までデジタルプロジェクター等の設備更新の為大型映像館の上映を休止

した。

(3) 連携活動

埼玉県博物館連絡協議会、日本ジャイアントスクリーン協会等の団体に加入し、各博物館及び大型映画関係者との連携を深め、情報交換を行った。

(4) 利便性の向上

各種割引チケット・各種パスポート等を発行し、利用者の利便性を高めることにより入館者増に努めた。また、春休み・ゴールデンウィーク・夏休みなどの繁忙期における営業日・営業時間の柔軟で弾力的な運営を図ることにより、利用者ニーズにお応えした。

(5) 広報活動

特別展等のイベントを中心とした効果的な広報を行った。

(6) 団体誘致活動

埼玉県及び都内近郊の幼稚園、小・中学校等の団体にパンフレット、リーフレットを配布した。

(7) ホームページの充実強化

ホームページの他、facebook 上に公式ページを作成し、イベント等の広報強化を行った。

(8) 普及啓発活動

①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)を新たな利用者、リピータ向けに実施した。

②ワークショップ・実験ショーを開催し、入館者増に結び付く活動を展開した。

③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」活動を、小学3年～6年生対象に今年度も引き続き実施し、「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験させるため、航空科学を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会等の活動を年間を通じて実施した。

開催教室数：32回、参加者数：869人

(9) ボランティア活動の充実

入館者サービスの一層の向上を目的として、ボランティア活動の充実を図った。

(10) その他の活動

①記念館のサービス施設として、スーベニアショップ及びカフェレストランの運営を行った。

②埼玉県と共に大型映像館にデジタルプロジェクターを設置し幅広い分野の作品を低コストで上映する環境を整った。

③新展示物として、テレビ朝日系列の番組「妻と飛んだ特攻兵」の撮影で使用された九七式戦闘機レプリカを購入した

(11) 入館者状況

2015年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り。

入館者数	団体件数	団体人(人)	個人(人)	総入館者数(人)
2015年度	361	19,869	164,900	184,769
2014年度	365	25,262	170,569	195,831
前年度比増減	-4	-5,393	-5,669	-11,062

※前年度との比較差異は、2015年度は、埼玉県が行った大型映像館のデジタルプロジェクター設置のため、1月20日から2月20日まで大型映像館の上映を休止しておりそれに起因する。

2. 国立ハンセン病資料館等の運営（厚生労働省受託事業）

厚生労働省より受託し、国立ハンセン病資料館（東京都東村山市）、重監房資料館（群馬県吾妻郡草津町）の運営管理を行うとともに、企画展・シンポジウム等を開催した。

（1）国立ハンセン病資料館の運営管理

2015年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り。

入館者数	団体件数	団体人数（人）	個人（人）	入館者数（人）
2015年度	461	16,821	15,549	32,370
2014年度	401	14,642	13,063	27,705
前年度比増減	+60	+2,179	+2,486	+4,665

①教育啓発機能関連業務

- 1) 講座（成田館長、儀同社会啓発課長による医学講座）
- 2) 佐川修氏、平沢保治氏による館内での語り部活動
- 3) 学芸員による展示解説・団体対応
- 4) 学習支援活動（講師派遣、出張講演、移動展示、教材貸出し）展示機能関連業務
- 5) 企画展示

- ・2014年度秋季・2015年度春季企画展

「この人たちに光を一写真家趙根在が伝えた入所者の姿」の開催

会期：2014年11月16日～2015年5月31日

- ・2015年度秋季企画展（「待労院の歩みー創立から閉院までの115年ー」）の開催

会期：10月3日～12月26日

6) セミナー、ギャラリートーク

- ・「ハンセン病と人権 夏期セミナー」の開催

会期：8月19日～20日

- ・ギャラリートーク（2015年度秋季企画展の学芸員による展示解説）の開催

開催日：10月17日、11月14日、12月13日

（2）重監房資料館の運営管理

2015年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り。（注. 2014年度は5月1日から一般公開）

入館者数	団体件数	団体人数（人）	個人（人）	入館者数（人）
2015年度	235	3,669	2,356	6,025
2014年度	276	4,525	3,868	8,393
前年度比増減	△41	△856	△1,512	△2,368

①歴史継承機能業務

- 1) 「重監房跡地見学デッキ」の公開

開催日：4月30日

- 2) 「語り部の日」の開催

会期：7月18日～11月25日（全16回）

②再現・展示機能業務

- 1) 企画展示

沢田五郎展「ハンセン病療養所と監房作家・沢田五郎が伝えたかったこと」の開催

会期：10月21日～11月14日

(3) シンポジウムの開催

- ①ハンセン病を正しく理解するフォーラム

開催日：6月25日（香川県高松市）

- ②第37回ハンセン病医学夏期大学講座

会期：8月3日～7日（東京都東村山市）

- ③第27回コ・メディカル学術集会

会期：11月27日～28日（熊本県合志市）

- ④第15回「ハンセン病問題に関するシンポジウム～人権フォーラム2015 in 北海道～」

開催日：11月3日（北海道札幌市）

(4) 啓発資料の作成・配布

- ①「ふれあい文芸 28年版」の発行

- ②啓発用パンフレット（一般向け）の印刷

- ③啓発用パンフレット（小学生高学年向け）の印刷

3. 青森県立三沢航空科学館（青森県受託事業）

(1) 展示物の保守・点検・修理

展示物の異常や故障などを未然に防ぎ、正常な稼動と安全運転を確保するため、展示物の保守点検を年4回実施した。

(2) イベントの開催等

夏休み期間中、映像とフィギアを用いてお化け屋敷を模した特別企画展「こわいものめぐり～わたしが恐怖を感じるまで～」を開催した。

Ⅲ. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

科学技術館の運営の経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行っている。

1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務（（公財）鳥取市文化財団受託事業）

鳥取市文化財団より鳥取市歴史博物館常設展示装置保守点検業務を受託し、常設展示装置の保守点検を年4回実施した。

2. 東京水道サービス(株)新漏水探知機PR映像制作業務（(株)乃村工藝社受託事業）

東京水道サービス(株)の製品である、新型漏水探知機の販促PR映像の制作を受託し行った。

3. 国立天文台アルマ棟バナー制作設置業務（自然科学研究機構国立天文台受託事業）

三鷹市にある国立天文台アルマ棟の、研究テーマを表象する大型懸垂幕4本を制作し、その施設の玄関吹き抜け部分に、設置工事を行った。

4. 美浜町エネルギー環境教育体験施設（仮称）・体験プログラム開発その1

（(株)トータルメディア開発研究所受託業務）

計画中である美浜町エネルギー環境教育体験施設（仮称）で実施する、小中学生向けの体験プログラムの実施設計を行った。

5. 日本鉱業協会科学技術館出展・展示製作業務（日本鉱業協会受託事業）

日本鉱業協会が科学技術館内に設置する展示ブースの、企画、設計、製作、設置を行った。

6. 横浜水道記念館再整備基本構想策定業務（(株)乃村工藝社受託事業）

横浜市水道局が運営する横浜水道記念館の、リニューアル方針を検討する基本構想を策定した。

7. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

山梨県立科学館、日立シビックセンター、サイエンスヒルズこまつ、岡三証券神楽洞夢等、プレアデスシステム導入館に対して、保守メンテナンス事業を実施した。

また、神楽洞夢については、運営、番組制作等に係るコンサルティング及び実施支援事業を行った。

8. 新規番組制作（岡三証券グループ(株)）

- (1) 前年度撮影を行った映像素材を元に、超高解像度オーロラ映像番組制作を受注し制作した。
- (2) 岡三証券グループより、NHK向け南米（アルマ、VLE、ウユニ塩湖）映像撮影業務を行った。

9. シータ用ドーム投影システム製作設置（リコー(株)より受注）

神奈川県海老名に新築されたリコーフューチャーハウス内に、シータ用ドーム投影システムを設置納品した。

10. 大型映像投影システム（大和ハウス工業（株）より受注）

栃木県の大和ハウス工業ショールーム内に大型映像投影システムを設置納品した。

11. 特許申請

拒絶通知に関する説明反論書を複数回提出し、現在正式な許可をまっている。

IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

科学技術体験イベント、国際科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家をめざすレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進している。

1. 青少年のための科学の祭典 2015

青少年のための科学の祭典は、当財団の提唱により 1992 年に開始され、草の根的な理科実験のイベントとして、20 年の歴史を数え、全国各地で展開している。当年度は、中外製薬株式会社などの支援を得て、科学技術館における全国大会をはじめ、76 市町村で、地方大会が開催された。参加者数は 342,201 人に及ぶ。

(1) 青少年のための科学の祭典 全国大会 (科学技術館)

会期 7 月 25 日・26 日、入場者数 13,185 人、出展数 70 (個人 30、団体 30、学生科学賞 6、放射線教育事例 4)

なお、2016 年度においては、国立青少年教育振興機構が実施する「こどもゆめ基金」からの助成が決定している。

(2) 青少年のための科学の祭典 地方大会

自主大会として北海道から沖縄まで、76 市町村で開催された。

2. 国際科学オリンピック

国際科学オリンピックは、大学入学以前の生徒を対象にして、第 2 次大戦後、東欧でスタートした。現在では、高校生にとって、科学ではもっともチャレンジングな目標となり、世界各国において、国際科学オリンピックをめざした活動が展開されている。当財団では、生物学オリンピック業務を行っている。

(1) 生物学オリンピック業務

① 日本生物学オリンピック 2015 の開催

1) 予選 : 7 月 19 日に全国 82 会場で実施、3,433 人が参加。本選に参加する 80 人を決定。

2) 本選 : 8 月 20 日から 23 日、三泊四日の合宿形式で、広島大学において開催、80 人が参加。成績優秀者に、金賞 10 人、銀賞 10 人、銅賞 20 人の表彰。

この中から 2016 年 7 月にハノイで開催される第 27 回国際生物学オリンピックベトナム大会に

出場する日本代表候補者として 15 人を選抜、12 月に冬期特別セミナーを開催、3 月に代表選抜試験を実施後、日本代表 4 人を決定した。

②第 26 回国際生物学オリンピック (IBO2015) への日本代表団派遣

今大会は、7 月 11 日から 20 日、デンマークで開催され、日本代表 4 人および引率者から成る代表団を派遣。世界 61 カ国・地域から 239 名の生徒が参加。日本代表は、金メダル 1 人、銀メダル 2 人、銅メダル 1 人の好成績であった。

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催 ((公財) 東京応化科学技術振興財団助成事業)

学校における教員の理科実験スキル向上を目的として、ベテラン教師による実践的な理科実験の極意を指導し、授業や社会教育活動に役立つ講習会を科学技術館「実験工房」で物理・化学・生物・地学の分野別に各 2 回開催した。(参加者: 延べ 99 人)

なお、2016 年度についても、助成を受けることが決定している。

4. 少年少女創造性育成事業 ((公財) 新技術開発財団受託事業)

第 46 回市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品の展示を 11 月に科学技術館で行い、小中学生を対象とした、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを 2 回、12 月に長崎県長崎大学にて、2016 年 3 月に科学技術館にて開催した。

5. 子供科学人材育成事業 (沖縄県受託事業)

沖縄県内の地域で科学コミュニケーションの裾野を広げるため、児童館や学童施設でのイベント実施や指導員を対象にした講演会・指導方法の研修会を延べ 113 回行い、6,548 人が参加。

V. [公益目的事業 5] 科学技術の普及啓発事業

科学技術映像祭、サイエンスフィルムカフェ、各種工作機器類・測定装置の整備、エネルギー・放射線等理解増進事業等、広範囲な科学技術の普及啓発事業を実施した。

1. 科学技術映像祭

(1) 第 56 回科学技術映像祭

①「自然・くらし部門」「研究開発部門」「科学技術教養部門」の 3 部門に、31 機関から 32 作品が出品され、内閣総理大臣賞に「鳥の道を越えて」(企画・制作: 工房ギャレット)、文部科学大臣賞 3 作品、部門優秀賞 6 作品及び特別奨励賞 1 作品の表彰を決定した。

②各賞表彰式(4 月 17 日)と入選作品上映会(4 月 16 日・17 日)を科学技術館サイエンスホールにおいて開催した。これらの入選作品は、全国の 14 科学館で上映会を行った。観客者数は、約 52,934 人。

(2) 第 57 回科学技術映像祭

「自然・くらし部門」「研究開発部門」「科学技術教養部門」の 3 部門に、27 機関から 44 作品が出品され、内閣総理大臣賞に「紅」（企画・制作：佐々木麻衣子／矢島 仁）、文部科学大臣賞 3 作品、部門優秀賞 6 作品、特別奨励賞 2 作品の表彰を決定した。

2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業

- (1) 中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために各種情報を提供する放射線教育支援 Web サイト「らでい」を運用するとともに、教員研修や石巻市をはじめとする放射線出前授業を実施した。
- (2) 「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会に放射線実験ブースを出展した。
- (3) 資源エネルギー庁の体験教室普及事業を全国 12 の科学館等で実施した。
- (4) 資源エネルギー庁の立地地域原子力教育セミナー事業を全国 19 道府県で実施した。
- (5) 資源エネルギー庁のエネルギー教育推進事業を実施した。エネルギー教育に意欲的に取り組もうとする小学校・中学校 61 校を「エネルギー教育モデル校」として選定し、エネルギー教育を実践させるとともに、エネルギー教育に関する副教材の配布、かべ新聞コンクール等を実施した。

VI. [公益目的事業 6] 科学技術振興に関する調査研究事業、

VII. [公益目的事業 7] 科学技術の研究開発とその促進事業

科学館、博物館等の来館者調査など、事業評価の実施及び事業の企画立案等に向けて調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジン等を発行した。

1. 調査研究

- (1) 「青少年のための科学の祭典・全国大会」来場者アンケート調査の実施

調査日：7月25日、26日

調査件数：子ども 717 件、大人 429 件

- (2) 来館者アンケート調査の実施

調査日：11月21日～23日

調査件数：子ども 314 件、大人 293 件

2. 広報活動

- (1) 「JSF Today」の発行

No.136 「科学の草の根を広げる～沖縄サイエンスキャラバンの3年」（2015年4月発行）、

No.137 「ニッポンの産業技術 50 年～今日の技術が未来をつくる～」(2015年7月発行)、

No.138 『大・展望展』 & 『科学捜査店 #SEASON 2』(2015年10月発行)

No.139 「先進的『知』のネットワーク形成」(2016年1月発行) 発行部数 各 3,000 部

(2) メールマガジンの発行

524号(4月1日)から573号(3月30日) 配信数10,872通(3月30日現在)

(3) twitterによる情報発信

フォロワー数1,830人(3月29日現在)

(4) 科学技術館メールマガジン「科学・技術よもやま話」の書籍化

「ヤングサイエンス選書『知って得する、科学と技術のお話』」発行

監 修 藤嶋昭

編 者 公益財団法人東京応化科学技術振興財団

著 者 科学技術館メルマガくらぶ

発 行 所 東京書籍株式会社

発 行 日 2015年4月7日

VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁及び関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託して実施した。この事業は、当財団の収益事業として財政基盤を支えることをめざしている。実施した主な業務は次のとおりである。

1. 情報システムの設計開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

- ①会計検査院：調査表管理システム運用保守業務
- ②(学)産業能率大学：利益管理システムWindows2008R2Server切替えに伴うシステム変更作業
- ③(学)産業能率大学：受講管理システム改修
- ④(学)産業能率大学：公開セミナーシステム機能追加
- ⑤(株)ニッセイコム：日本芸術文化振興会向け総合チケットシステム追加作業
- ⑥(株)イセトー：不動産会社向けシステム改修作業
- ⑦(株)イセトー：モニタリングレポート作成ツール処理速度改善業務
- ⑧(株)イセトー：損保向けレポート閲覧システム
- ⑨(株)片平エンジニアリング：路面損傷評価資料作成支援及び路面評価プログラムの改修

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

- ①(株)電通国際情報サービス：PLM技術支援業務

(3) その他

- ①文部科学省：ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム(HFSP)情報提供・広報活動業務
- ②科学技術振興機構：科学技術・理科教育用デジタル教材提供システムの運用保守 管理及び運営管理

2. 情報システムの運用サービス

- ①中外製薬(株)、オムロン(株)：LMS(Learning Management System)の運用業務
- ②(学)産業能率大学、(職)日本技能教育開発センター：通信教育Web受講申込システムの運用業務
- ③(一社)電子情報技術産業協会：統計システムのデータ登録・運用業務
- ④(学)産業能率大学：会計決算システム運用業務
- ⑤通信教育団体：成績報告支援サービス

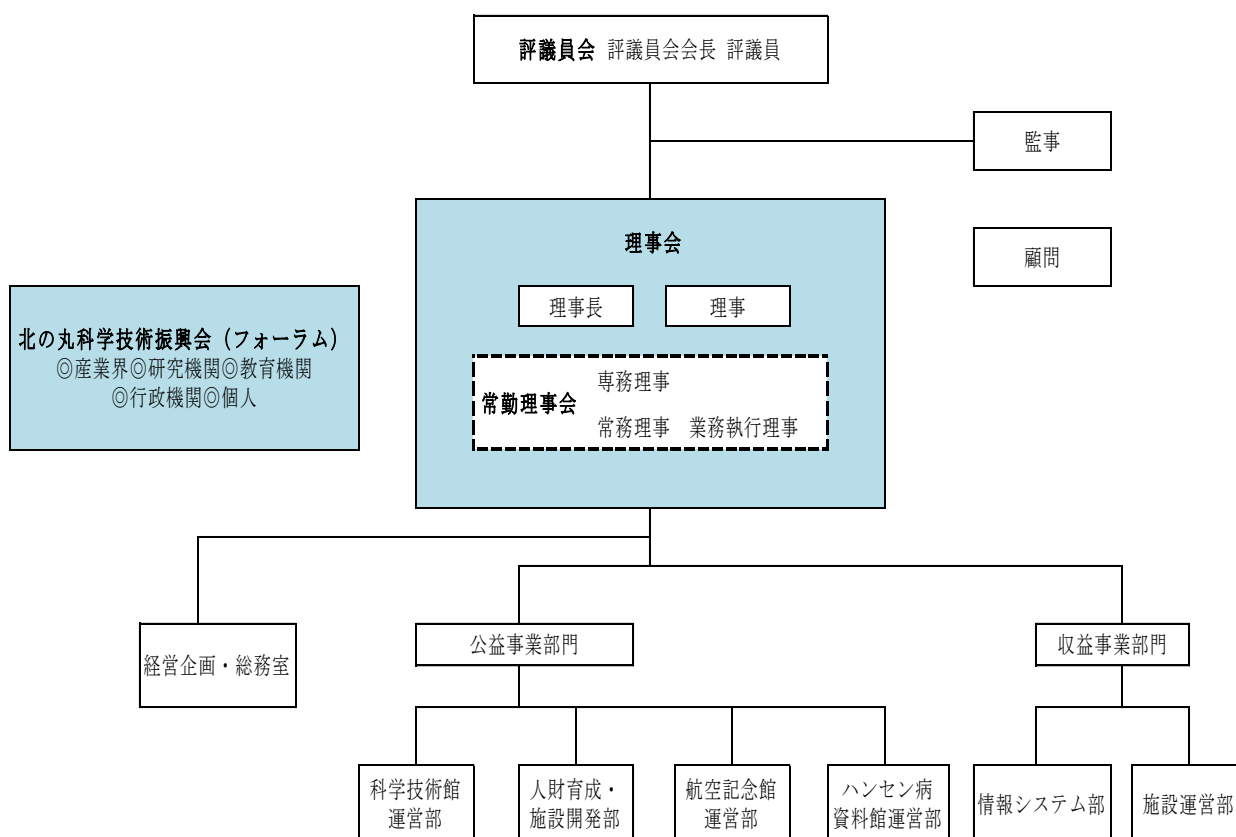
Ⅷ. 【収益事業2】 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベントなどに利用していただいている。地階のサイエンスホールでは、土日にアニメ等の各種イベント、平日に講演会、セミナー、研修会等が行われている。また、5階、6階の会議室も貸し出している。この事業は、収益事業として経営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度は、昨年度に引き続き各設備を利用していただく顧客に対しニーズを把握し、満足度を向上させる取組みを行うことにより、継続的需要、更には新規需要に結び付けるように活動した。

【総合活動】

1. 当財団の組織 (2016年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2016年3月31日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
榊原 定征	代表理事	理事長	法人代表
藤川 淳一	代表理事	専務理事	法人代表
紙野 憲三	業務執行理事	常務理事	航空記念館運営部担当 (所沢航空発祥記念館館長)(兼)、 科学技術館リニューアル担当(兼)、 各プロジェクト担当
植木 勉	業務執行理事	常務理事	科学技術館運営部担当(兼)、 人財育成・施設開発部部長(兼)、 ハンセン病資料館運営部担当
新元 一弘	業務執行理事	理事	経営企画・総務室担当(兼)、 情報システム部担当(兼)、 施設運営部部長
岩科 季治	業務執行理事	理事	建設工事の請負に係る業務担当

3. 会議の開催

(1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

- ① 第5回定時評議員会 2015年6月23日
- ・2014年度の決算書類の承認の件
 - ・評議員選任の件
 - ・議案3. 理事選任の件
 - ・議案4. 監事選任の件
 - ・議案5. 監事に対する報酬支払承認の件

- ② 第1回書面評議員会 2015年7月30日
- ・評議員会会長の選定について

- ③ 第6回臨時評議員会 2016年3月14日
- ・理事選任の件
 - ・定款の一部変更の件

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

- ① 第9回通常理事会 2015年6月9日
- ・2014年度の事業報告及び決算書類の承認の件
 - ・定時評議員会の招集の件
 - ・理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

- ・理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件
- ・理事会提案として評議員会に提案する監事候補者の決定の件
- ・2015年度補助・助成事業実施に関する件

② 第5回臨時理事会 2015年6月23日

- ・代表理事選定の件
- ・理事長及び専務理事各1名選定の件
- ・理事長職務代行順位の決定について
- ・業務執行理事の選定の件
- ・常務理事の選定の件
- ・業務執行理事の業務分担決定の件
- ・重要な使用人の選任及び重要な組織の設置、変更について
- ・理事の報酬額の決定の件
- ・顧問選任の件

③ 第7回書面理事会 2015年9月25日

- ・重要な使用人の選任について

④ 第8回書面理事会 2016年2月25日

- ・臨時評議員会の招集について
- ・理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定

⑤ 第10回通常理事会 2016年3月14日

- ・2016年度事業計画及び予算書等の承認の件
- ・特定費用準備資金等の保有に係る承認の件
- ・重要な組織の設置、変更について

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(3) 顧問会議の開催

開催なし

(4) 常勤理事会の開催

定款第41条第2項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月2回(原則)、常勤の理事6名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付している。

4. その他

(1) 経営課題の推進

(2) 機構改革

- (3) 事業予算および要員予算編成方針策定
- (4) 要員中期計画策定
- (5) 四半期毎の業績検討会の実施
- (6) 事業損益改善の推進
- (7) 科学技術館開館 50 周年、財団設立 55 周年事業取りまとめ

－ 以上 －